



## 食包協会報第 180号 (2023年10月号) ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。この度180号(2023年10月号)を公開いたしました。今号では4編の記事を掲載しております。

1つ目の記事では、軟包装衛生協議会・常務理事の坂田亮様に『軟包装衛生協議会の活動のご紹介』と題して2025年に50周年を迎える当該協議会の活動方針はじめ衛生管理の自主基準及び工場認定制度の説明と食品衛生法の改正などによる法規制の変化に対して軟包装の安全性を守るために当該協議会が行っている活動が紹介されております。食の安心・安全に当該協議会が果たしている役割を再認識させられる内容です。

2つ目の記事では、湯川食品科学技術士事務所・所長の湯川剛一郎様に『最近の包装に関連する法令や規制の国内外の動向について』と題して数多くある食品の容器包装に関する法律・規制について分かり易く利用現場(容器包装の製造や容器包装の使用後など)に沿って説明する内容です。

3つ目の記事では、フタムラ化学株式会社様に『環境調和型 L-LDPE フィルム「LL-HMN」』と題して「減容化」「バイオマス化」「リサイクル」と分類できる食品包装用フィルムの環境対応において「減容化」をターゲットにした L-LDPE フィルム「LL-HMN」の性能を汎用品との性能比較等を分かり易く説明する内容です。このフィルムを使用することで約20%のプラスチック使用量の削減が可能になるとのことです。

4つ目の記事では、公益社団法人日本包装技術協会 包装技術研究所 輸送包装研究室の金子武弘様に『インターパック 2023に見る包装の動向』と題してコロナの影響もあり6年ぶりの開催となったインターパック(2023年5月)の視察およびドイツのスーパーなどでの包装の訪問調査を紹介頂き、インターパック関係ではモノマテリアルやプラスチック削減の考え方を具体的な数字を踏まえて展示内容を紹介する内容で欧州の包装市場の方向性を理解できる内容です。

弊協会 Web コミュニケーション委員会では、公平・中立の原則のもと、どのような企画をすれば皆様に関心を持っていただけるかといったことを常に問いながら、これからも魅力ある記事の発信に努めていきたいと考えております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受けて下さいました坂田様、湯川様、フタムラ化学様、金子様に心から厚く御礼申し上げます。

2023年10月20日  
広報委員 笹生勝也